

# うらおそい歴史新聞



第15号  
平成26年  
10月

## ようどれが結ぶ浦添市

### と静岡市のつながり

琉球王統第七代王の尚寧王の高弟である具志頭王子尚宏が眠る墓が、静岡県静岡市清水区の清見寺にあることはあまり知られていないのではないだろうか。9月27日に静岡県静岡市の商工会議所の沖縄訪問団の一行が浦添ようどれを訪れ、去る9月6日に清見寺で営まれた王子の法要について報告を行いました。

具志頭王子尚宏は、兄である尚寧王の摂政を務めた人物です。尚宏は薩摩藩の侵攻を受けた翌年の1610年に時の二代将軍・徳川秀忠に謁見するために江戸に向かう際、大御所の家康が暮らす駿府に立ち寄りました。ところが、その十二日後に高熱を発し、わずか三十三歳で帰らぬ人となり、海に見える清水の清見寺に葬られたと伝わっています。

清見寺にある具志頭王子尚宏の墓は、現在も周辺の人々の志により見守られています。(粟森)



**具志頭王子尚宏の墓**  
静岡県静岡市にあります。海に見える清見寺につくられています。



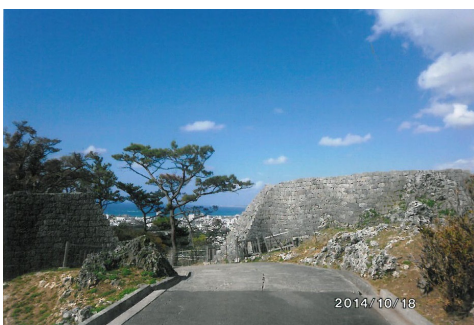
**浦添ようどれ**  
浦添ようどれの東室は、尚宏の兄である尚寧王の墓であると言われています。

## 策しませんか？

### 浦添グスクを一緒に散

NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会では、11月23日に、市内外の皆様を対象に、琉球王統開闢の地・浦添グスクとその周辺を散策するイベント「浦添グスクの散策」を実施します。

浦添グスクは、舜天王、英祖王、察度王を生み、那覇の一部や宜野湾を含む広大な海を治めた「うらおそい」の歴史ロマンを語る場所であり、また去った太平洋戦争で鉄の暴風に見舞われた場所でもあることから歴史・平和学習にもふさわしい場所です。問合せ・申込は浦添グスク・ようどれ館まで。



**浦添グスク**  
「うらおそい」は浦々を襲う(治める)の意味です。城壁の向こうには、浦添・宜野湾の海が見渡せます。



**ディーグガマ**  
戦時中には避難壕となったガマです。上部には慰霊碑である「浦和の塔」があります。

### 浦添グスク・ようどれ館

- 【開館時間】午前9時～午後5時
- 【入館料】大人(高校生以上) 100円  
小人(小中学生) 50円
- ※市内小・中学生は無料
- 【休館日】月曜日・年末
- 【住所】〒901-2103 沖縄県浦添市仲間2-53-1
- 【電話】098-874-9345
- 【アクセス】琉球バス交通牧港線5番仲間バス停から徒歩5分

